

授業で使える当館所蔵地図

No. 9 『信州浅間吹出村里之絵図細見』

作成年：1783（天明3）年

サイズ：32×47cm

作者：上州高崎本町本屋喜兵衛（版）



【解説】

天明の「浅間焼け」は1783(天明3)年4月9日(旧暦)に火口から噴煙が上ったことから始まった。7月8日の最大の噴火では、北麓へ「鎌原火砕流」と呼ばれる大火砕流が発生した。孺恋村(旧鎌原村)など6か村344軒が全滅した。また、土石が吾妻川を埋めたことから鉄砲水が発生し、下流の55か村で流死者1600人余、流失家屋1150軒余という被害が生じた。この噴火による火山灰は、上州を中心に田畑に大きな被害を与えた。成層圏へ達した火山灰による日射量の減少は「天明の飢饉」の一因ともなった。

この図は瓦版として上州高崎の版元から売り出されたものであり、浅間山の噴火の激しさや被害の大きさをあらわしている。特に吾妻川流域の村々の被害状況を詳細に記載してある。

★1 浅間山

長野県北佐久郡軽井沢町及び御代田町と群馬県吾妻郡孺恋村との境にある2,568mの複合火山。円錐型をしている。世界でも有数の活火山として知られる。

浅間山の噴火として記録された最古のものは西暦685年(白鳳13年)の噴火で、日本書紀に書かれている。その後の約600年間には噴火の記録としては887(仁和3)年と1108(天仁元)年の噴火があり、いずれもかなり大きな噴火であったと思われる。ついで1281(弘安4)年にも大きな噴火があった。天仁元年噴火では、山頂部が陥没して前掛山のくぼみができた。

弘安4年の噴火後200年余りの間ははっきりした噴火の記録がなく、わりあい静かな状態が続いたと思われる。1517(永正14)年から1532(享禄4)年にかけて噴火があり、ついで1596(慶長元)年から1609(慶長14)年にかけて烈しい噴火があった。その後ひんぱんに噴火が繰り返され1783(天明3)年の大噴火まで続く。

★2 瓦版

江戸時代、天変地異や大火など、時事性の高いニュースを伝えた情報紙のこと。街頭で読み上げながら売り歩いたことから、読売(讀賣)ともいう。木版摺りが一般的。また、多くは一枚摺り。絵入りのものなどもあり、幕末期には多く出版された。明治初期までは出版されることがあったが、その後は新聞の登場などにより衰退した。

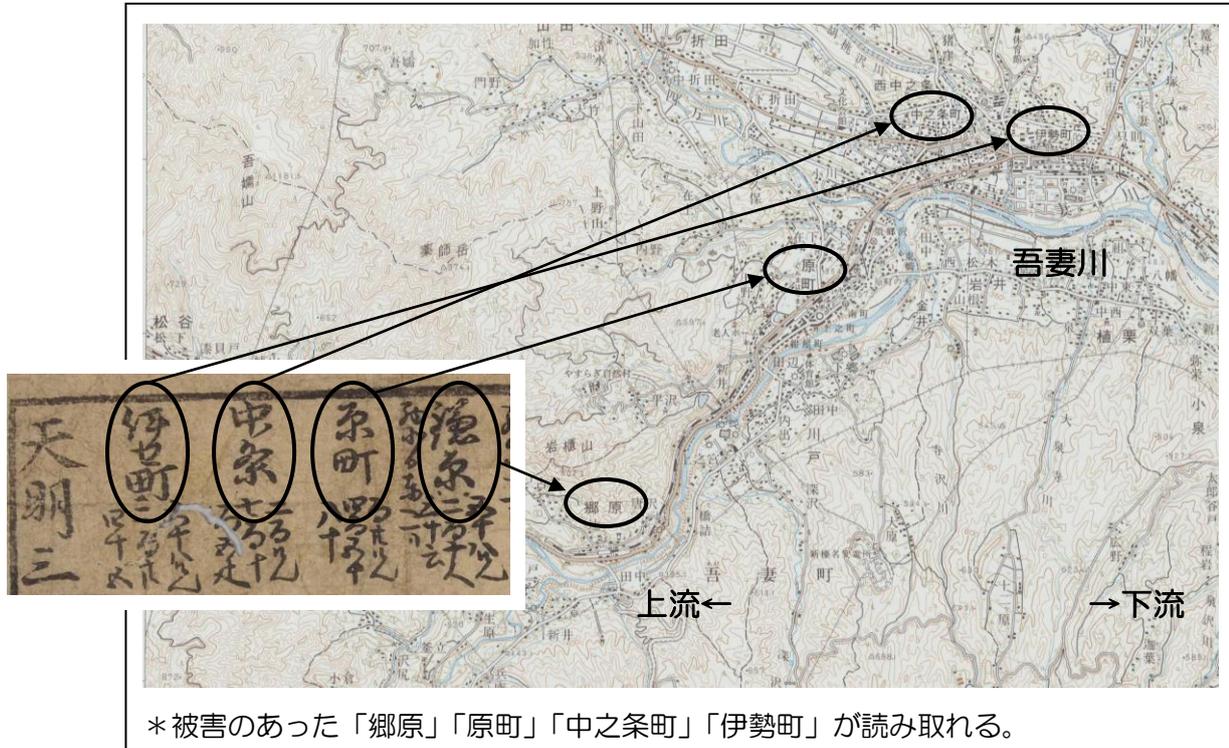
★3 天明の大飢饉

天明3年3月には岩木山が、7月には浅間山が噴火し、各地に火山灰を降らせた。火山の噴火は、日射量低下による冷害をももたらすこととなり、農作物には壊滅的な被害が生じた。このため、翌年から深刻な飢饉状態となった。

被害は東北地方の農村を中心に、全国で数万人（推定で約2万人）が餓死したと杉田玄白の著書『後見草』（のちみぐさ）が伝える。弘前藩（津軽藩）の例を取れば死者が十数万人に達したとも伝えられている。逃散した者も含めると藩の人口の半数近くを失う状況になった。飢餓と共に疫病も流行し、全国的には1780年から86年の間に92万人余りの人口減をまねいた。

農村部から逃げ出した農民は各都市部へ流入し、治安の悪化が進行した。1787（天明7）年には、江戸や大坂で米屋への打ちこわしが起こり、その後全国各地へ打ちこわしが広がった。

【現在の地形図と見比べる】 平成10年国土地理院発行 1:50,000 中之条



【用語について】

・信州

日本の令制国の一つ、信濃国の別称。現在の長野県。7世紀代の信濃を記すものとして知られる木簡は、7世紀末の藤原宮跡から出土した「科野国伊奈評鹿口大贄」と書かれている。また、『古事記』にある「科野国造」の表記と一致する。当時は科野国と書いていた。これが704(大宝4)年の諸国印鑄造時に信濃国に改められた。「科野」は713(和銅6)年の『風土記』を境に、「信野」を経て「信濃」へと移り変わっていく。

・上州

日本の令制国の一つ。上野国の別称。現在の群馬県。古代関東には「毛野」および「那須」と呼ばれる勢力が存在し、前者が上下に二分されて「上毛野」「下毛野」となった。713(和銅6)年に、上毛野国・下毛野国の国名は「上野国」「下野国」と改められた。

・天明

1781年から1789年までの期間を指す。天明3年に浅間山の大噴火、天明6年に田沼意次の失脚、天明7年に松平定信が老中に就任し、寛政の改革が始まるなどの出来事がある。

【利用の例】

○田沼意次の政治を学習する際の資料として活用できる。

→本図は瓦版のため、浅間山の大噴火の様子や被害を視覚的に知ることができる。

→浅間山の大噴火により、天明のききんがおこり、そして、各地で百姓一揆や打ちこわしが起こり、田沼意次の失脚にもつなげて学習することができる。

○江戸時代の町人の情報源として「瓦版」があったことを理解できる。

→新聞は明治時代になり、庶民にも普及するようになり、テレビ、インターネットのないその当時としては貴重な情報源だった。新聞や情報の歴史を学習する際に、江戸時代の情報源だった瓦版を紹介することができる。